

水田 由美子・他

勤労にかかわる体験学習の実践的研究

—水田による教育を中心にして—

研究成果報告書

勤労にかかわる体験学習の実践的研究

水田委員会 岡 村 彰（委員長）

中学一年担任 貝 沼 喜 兵（委員）

石 川 祐 爾

入 江 友 生

高校一年担任 岡 本 忠 篤

大 西 光 興

石 川 秀 樹（委員）

深 瀬 幹 雄

技 官 佐 藤 義 郎（委員）

1 学校の概況

(1) 学校の位置、環境条件

東京の副々都心といってもよいであろう渋谷からほぼ西方2Km程の場所にあり、世田谷区に所在しているが、区の東端で最も都心に近い所に位置している。

近くには東京大学教養学部があり、高等学校としては都立の駒場高等学校、芸術高等学校が、私立の駒場東邦高等学校、東京工業高等学校、駒場学園高等学校など多くの学校があるとともに、なお近隣には電々公社駒場通信学園、郵政省電波研修所、大学入試センター、日本近代文学館、民芸館などもあって、一文教地域を形成している。また、警視庁の第3機動隊があり、国民年金の駒場エミナースも最近建てられたが、その他は住宅地を形成していて、環境条件として交通の便もよく、恵まれているといえよう。

(2) 学校の沿革、実状

昭和22年に東京農業教育専門学校の附属として中学校が、3年おくれて昭和25年に高等学校が開校した。その後学制の改革に伴って東京教育大学の附属となり、昭和53年からは東京教育大学の閉学によって筑波大学の附属となって現在に至っている。

本校が開校してから12年間は、全日制課程普通科と農業科とが併設されていたこともあって、卒業後就職、自営する生徒も何人かはいたが、現在では卒業生のほぼ全員が大学進学をめざしている男子校である。また、開校後数年間は中学校卒業生は本人の希望によって他の高等学校（公立高等学校、私立高等学校）にも進学したが、その後は中学校、高等学校6か年一貫教育を実施し、附属中学校卒業生は原則として全員附属高等学校に進学している。1学年の学級数は、中学校が3学級、高等学校が4学級なので、高等学校の段階で約1学級に相当する生徒を募集している。

(3) 水田の歴史的経緯と現状

勤労にかかわる教育として水田によるイネ栽培を実施しているが、この水田は駒場農学校が明治11年に開校されたときの農場の一部であって、面積はおよそ1848m²とされている。駒場農学校はその後学制の改革などによって変遷をたどり、東京農林学校、農科大学、東京帝国大学農科大学、東京帝国大学農学部となって、昭和12年付設教員養成所が東京農業教育専門学校として駒場に残り、昭和25年5月東京教育大学農学部となった。従って、駒場の水田も駒場農学校からの移り変りに伴って所管替えされ今日に至っている。

駒場の水田は、わが国最初の水田試験地として知られ、ケルネル田圃とも呼ばれており、日本農学発祥の水田として農学史上極めて貴重な水田となっている。ケルネル（ドイツ人）は、明治14年に外人教師として着任後、明治25年まで水田土壌の研究と、イネ作肥料の研究に多くの業績を残し、農学の基礎作りに大きく貢献した。その後も駒場にかかわりをもつ多くの教師、学生などによって

駒場の水田を用いた貴重な実験研究、実習がなされてきた。

さて、本校と駒場の水田との結びつきは、開校当初の母体であった東京農業教育専門学校より水田をかり受け、昭和22年6月15日に中学1年の生徒によって田植えを実施したのがはじまりである。昭和25年に高等学校が開校されたが、中学校と同様にイネ栽培の学習が行われるようになった。その後30余年経過した今日まで、

- (a) 自然にかかわる労作教育を通して、生徒に働くことの意義を体得させ、働く人々への理解と関心を深め、働くことや生産することの喜びを味わわせる。
- (b) 都会育ちの生徒に、土に親しむ労作の機会を与え、栽培技術を習得させるとともに、自然の生命を育むことの尊さ、自然と人間とのかかわり合いを学びとらせる。
- (c) 「日本農学発祥の水田」という歴史的遺産を自ら継承することの誇りと、これを尊重する態度を養わせる。

の三点を水田による教育のねらいを考えて、駒場の水田による教育が続けられている。

2 研究の概要

(1) 研究の組織

各種委員会の一つとして水田委員会が設けられ、研究部長と連系を計り、水田による教育の効果的指導を行うため、計画の立案、実施、運営にあっている。

水田委員会は、中学1年、高校1年の担任から各1名、技官1名と技術・家庭科教官1名の計4名で構成し、原則として毎月1回（必要に応じて臨時の委員会をもつ）、カリキュラムの計画、実施方法などを主題として定例委員会を開いている。なお、当委員会は、水田でのイネ栽培を中心に畑作についても中学と高校との連系を計りながら生徒を指導し、運営にあっている。

(2) 実施状況

指導時間帯は、原則としてクラブ活動（必修）の時間を活用（天候などの関係でホーム・ルームの時間などに行うこともある。）している。

本校では個々の生徒に同じような作業、勤労を体験させたいという観点から、従来から行われていたような手植えによる田植え、のこぎり鎌による稲刈りを行い、機械としては耕耘機、脱穀機、籾すり機を使用しているに過ぎない。

水田の使用状況は、大部分はイネ栽培をしているが、水源池に近い2枚の水田は、元東京教育大学農学部某研究室で作物の実験、研究のため畑の状態で使用していたので、水田の地力の復旧の段階として、また灌漑用水の量の点からも中学1年の生徒によってサツマイモなどの栽培を行っている。また、駅より2枚の水田は、指導時間の減少、地力を高めるという観点から近年休閑させて

いたが、今年度は昨年と同様に水田への復旧を目的として高校1年の生徒によってサトイモの栽培を行い、一部の水田は苦勞したが耕起させた。

これらの年間指導計画は、概ね次表の通りである。

なお、今年度は、昨年度の反省の上に立って、事前に必修クラブ委員に教官側から説明しておき、作業当日は、必修クラブ委員から生徒に指示、示範させた。

年 間 指 導 計 画

月 内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
イ (品種 ネ 作 ゲツモチ) リ	苗代の準備	苗代の耕起	田植え 本田の代掻き	除草剤の散布		防鳥ネット張り	稲刈り 稲架作り	脱穀	稲刈り後の堆肥整理			水田の耕起
中 (サツマイモ) 学 一 年 の 畑 作	畑の耕起 種芋のふせ込み	苗の植え付け (うね作り)	除草	追肥・除草				整地 掘りとり(収穫)				畑の耕起
高 (サトイモ) 校 一 年 の 畑 作		マルチング 畑の耕起 種芋の植え付け		追肥・土寄せ・除草				整地 掘りとり				

水田の水の調節は、生育期間中継続して行っている。

クラブ活動の時間は、本校では体育的活動、学芸的活動、生産的活動などを行っているが、これらのうち生産的活動の指導時間は、ほぼ次のようである。

生徒数に対して場所の広さ、作業内容、農具などの数量等の関係から、グループに分けてイネ栽培と畑栽培の作業に分けて、同一時間帯に作業をさせることもある。

個々の作業内容などについての説明は、当日勿論行すが、事前に生徒に説明し、徹底して理解させておくことが望ましいわけである。しかし、そのような時間が望めないのも、便宜的方法ではあるが、駒場の水田の由来、イネの生育経過、イネの一生とおもな作業、栽培のめあす、イネの性質と環境、水田の雑草についてなどに関するプリントを年度始めに生徒に配布して、よく読んでおくように指示した。

中学1年（3学級、各級約40名、計約120名）

I イネ栽培（品種；マンゲツモチ）

(1) 水田の耕起の見学など	2時間
(2) 苗代への播種	1 "
(3) 苗代の除草	3 "
(4) 田植え	2 "
(5) 本田の除草	3 "
(6) 稲刈り	2 "

II 水田休閑地の畑作（サツマイモなどの栽培）

(1) 育苗状況の見学、管理	3時間
(2) 植え付け準備	3 "
(3) 植え付け	1 "
(4) 除草	3 "
(5) 収穫（イモ掘り）整理	2 "

高校1年（4学級、各級約40名、計約160名）

I イネ栽培（品種；マンゲツモチ）

(1) 水田耕起の見学など	2時間
(2) 苗代への播種	1 "
(3) 苗代の除草	3 "
(4) 田植え	3 "
(5) 本田の除草	3 "
(6) 防鳥網張り	1 "
(7) 稲刈り	2 "
(8) 脱穀	1 "
(9) 稲刈り後の整理 堆肥作りなど	8 "

II 水田休閑地の畑作（サトイモなどの栽培）

(1) 耕地の除草、耕起	2時間
(2) うね作り	1 "
(3) マルチング	1 "
(4) 植え付け	1 "
(5) 除草、追肥、土寄せ	2 "
(6) 収穫（イモ掘り）	1 "
(7) 収穫後の整理	2 "

生産物であるコメは、本校の卒業式、入学式当日赤飯に加工して、生徒に還元している。

中学1年のサツマイモは、学級毎に芋掘りを行い、ある学級では他校と生徒と協同作業で掘り、収穫した芋は各家庭に持ち帰らせて試食させた。

高校1年のサトイモは、去年は種芋を植え付けてから黒色ビニルフィルムでマルチングを行い、発芽に伴ってビニルをその部分だけ切って生育させるようにし失敗したため、今年度は手元にビニルがあったこともあり、植え付け前にビニルを畦に覆い等間隔にカッターで切って、そのヶ所に植えさせた。その結果欠株が非常に少く、収穫量は昨年より著しく多かった。教官をはじめ生徒全員に持ち帰らせ家で試食させた。

(3) アンケートの調査

今年度は年度のはじめに勤労にかかわる体験学習について、生徒がどのような意識をもっているかをアンケート調査を事前に行い、事後調査もほぼ昨年同様に実施した。また、卒業生に対しても在校中彼等が経験したことをどのように認識しているかを簡単に調査した。

その結果をまとめたものは、次の通りであった。

事前の意識調査の結果(%) (s, 55, 4, 14実施)

A. 入学式のとき担任からもらった赤飯について

- 1 ; 前年学校で収穫したコメを加工したものであ
ると聞きおどろいた
2 ; 感謝の気持ちで食べた
3 ; 今年はぼくらの手で作らねばならないと思っ
た
ア, はい イ, いいえ ウ, どちらともいえない
エ, 無答

(設問の記入記号は以下全部同じ)

設 問	中高別	ア	イ	ウ	エ
A-1	中	7 1	1 5	1 2	1
	高	1 6	7 4	8	2
A-2	中	5 1	7	3 9	3
	高	2 0	4 0	3 9	1
A-3	中	8 2	5	1 2	1
	高	3 7	3 7	2 5	1

B. 勤労体験学習として水田でイネ栽培することについて

- 4 ; 大変興味をもったし、やってみたいと思った

B-4	中	7 3	3	2 1	3
	高	3 5	3 6	2 8	1

C. 勤労学習体験では、他の教科の授業とはちがって、自然とかかわり合う学習をするわけで、このことについて

- 5 ; 自然とのふれ合いの必要性を感じる

C-5	中	6 6	3	2 7	4
	高	6 2	1 7	2 0	1

D. 勤労について

- 6 ; 体を動かし、勤労することは自分の好みにあ
っている
7 ; 農作業することは、人間形成の点からみてよ
いことだと思う

D-6	中	4 0	1 4	4 5	1
	高	3 2	2 9	3 8	1
D-7	中	6 6	2	2 9	3
	高	5 3	1 6	3 0	1

E. 栽培に対する関心について

- 8 ; 大変に関心をもっている

E-8	中	5 3	9	3 5	3
	高	2 6	4 1	3 2	1

F. 本校でのイネ栽培について

- 9 ; 開校以来続けている本校の伝統なので、今後
も続けるのがよいと思う

F-9	中	9 3	0	4	3
	高	8 1	8	6	5

G. 食べ物を食べるときのことについて

- 10 ; 食物は多くの人々の苦労によって生産された
ものなので、感謝の気持ちで食べている
11 ; 感謝の気持ちは別として、粗末にしないよう
にしている

G-10	中	1 6	1 7	6 4	3
	高	2 5	2 9	4 4	2
G-11	中	7 9	1	1 8	2
	高	8 3	4	1 0	3

勤労体験学習を終えた事後の感想調査の結果(%) (s, 55, 12, 8実施)

- 12 ; 水田での農作業は、よい経験になりましたか
ア, はい イ, いいえ ウ, どちらともいえない
エ, 無答

(設問13も同じ)

昭54	中	8 5	4	9	2
	高	7 9	3	1 5	3
昭55	中	8 5	0	1 5	0
	高	7 0	6	1 8	6

13；農作業は全体的にみて楽しい仕事でしたか

昭54	中	52	22	24	2
	高	48	28	22	2
昭55	中	65	12	21	2
	高	42	28	25	5

・イネ栽培について

14；最も楽しかった作業は、次の中のどれですか

ア、苗代作り。種まき イ、苗代。本田の除草
ウ、田植え エ、稲刈り。はさかけ オ、脱穀
カ、無答

(設問の記入法は21まで同じ)

年 度	中高別	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
昭54	中	3	2	48	39	3	5
	高	7	3	35	35	19	1
昭55	中	6	2	48	40	0	4
	高	7	1	33	23	30	6

15；2番目に楽しかった作業は、上の中のどれですか

昭54	中	1	5	36	41	5	12
	高	14	10	18	37	19	2
昭55	中	19	7	31	40	0	3
	高	8	6	20	36	22	8

16；最もつまらなかった作業は、上の中のどれですか

昭54	中	1	50	15	3	3	28
	高	5	56	24	7	5	3
昭55	中	19	52	12	5	0	12
	高	6	32	29	21	3	9

17；2番目につまらなかった作業は、上の中のどれですか

昭54	中	20	8	16	16	4	36
	高	29	23	21	17	6	4
昭55	中	33	26	12	10	0	19
	高	24	30	15	17	5	9

・サツマイモ栽培について(中1)

ア、うね作り イ、苗の植え付け ウ、除草
エ、イモ掘り オ、畑の後仕末 カ、無答

18；最も楽しかった作業は、どれですか

昭54	8	4	2	81	0	5
昭55	3	5	2	83	2	5

19；2番目に楽しかった作業は、どれですか

昭54	18	56	8	6	4	8
昭55	19	61	7	7	2	4

20;最もつらかった作業はどれですか

年 度	ア	イ	ウ	エ	オ	カ
昭54	12	0	56	2	22	8
昭55	48	5	28	1	12	6

21;2番目につらかった作業は、どれですか

昭54	25	3	19	1	40	12
昭55	20	12	40	6	17	5

・サトイモ栽培について(高1)

ア,畑の耕起.うね作り イ,イモの植えつけ

ウ,除草 エ,マルチング オ,イモ掘り

カ,無答

18;最も楽しかった作業は、どれですか

昭54	13	19	3	6	56	3
昭55	10	8	3	7	66	6

19;2番目に楽しかった作業は、どれですか

昭54	20	48	8	8	13	3
昭55	17	39	15	7	12	10

20;最もつらかった作業は、どれですか

昭54	34	7	37	9	9	4
昭55	39	7	16	24	4	10

21;2番目につらかった作業は、どれですか

昭54	30	8	38	14	6	4
昭55	20	22	15	26	5	12

22;この一年の栽培の経験を通して、あなたは
農家の人々の仕事に対して関心が深まりましたか
ア,深まった イ,変らない ウ,無答

年 度	中・高別	ア	イ	ウ
昭54	中	38	57	5
	高	31	66	3
昭55	中	54	40	6
	高	29	66	5

23;この一年の栽培の経験を通して、あなたは
勤労に対してどのように感じましたか

ア,働く喜びを知った イ,働くつらさを知った

ウ,無答

昭54	中	84	7	9
	高	76	11	13
昭55	中	55	40	6
	高	33	56	11

24；この一年の栽培の経験を通して、あなたは
作業に対してどのように感じましたか
ア、自分にとって働くことは意味がある
イ、自分にとって働くことは意味がない
ウ、無答

年 度	中高別	ア	イ	ウ
昭54	中	84	7	9
	高	76	11	13
昭55	中	92	4	4
	高	78	12	10

25；この一年の農作業の経験は、日常生活に役
立っていると思いますか
ア、いる イ、いない ウ、無答

昭54	中	29	66	5
	高	21	75	4

(A)ア、勤労に真剣にとりくむようになった
イ、変らない ウ、無答

昭55 A	中	35	63	2
	高	22	71	7

(B)ア、食物の有難さがわかり、味わって食べ
るとともに残すことなく食べるようにな
った イ、変らない ウ、無答

昭55 B	中	31	66	3
	高	22	72	6

(C)ア、自然に接する必要性を感じた
イ、別に感じない ウ、無答

昭55 C	中	76	17	7
	高	58	37	5

(D)ア、栽培に興味をもった イ、変らない
ウ、無答

昭55 D	中	63	30	7
	高	36	60	4

(E)ア、虫に対する恐怖がへった
イ、変らない ウ、無答

昭55 E	中	3	93	4
	高	10	84	6

26；水田でのイネ栽培は、学校として継続した
方がよいと思いますか
ア、よいと思う イ、よいと思わない
ウ、無答

昭54	中	80	13	7
	高	79	18	3
昭55	中	91	3	6
	高	84	9	7

卒業生に対しては、同窓会、クラス会、の会合の折に出席したOBに協力願い調査した。卒業した時期によって生活経験も異なるし、現在おかれている状態も違うので、集計するにあたって次のように分けた。すなわち、普通科とともに農業科が置かれていた1期から12期まで（A：28名）、大学を卒業し社会人になってから少くとも3～4年は経験しているのが平均的である13期から22期まで（B；12名）、まだ在学中か社会人になってから1～2年しか経過していない23期～28期まで（C；18名）の3つのグループに分けた。

卒業生に対するアンケート調査の結果 (s, 55, 11, 21, 調査)

1. 在校中に実習作業しているときどのように感じましたか

- a, つらいし、実習・作業をする意味がなく、やりたくなかった
b, 農作業の経験がほとんどないので興味をもち、結構楽しかった
c, 別にこれといった感慨はなかった

	A (1 ~12期)	B (13 ~22期)	C (23 ~28期)	全体
a	0人	0人	0人	0人
b	24	11	17	52
c	4	1	1	6

2. 楽しく経験できた理由は、次のどれに該当しますか

- a, 教科の授業とは無関係だったので、気分の転換ができた
b, 教室内の授業とは形態が異なるので、のんびりできた
c, 今後二度とこのような体験はできないので、貴重な経験ができた

	A	B	C	全体
a	2	0	3	5
b	10	12	9	31
c	15	8	11	34

3. 経験した作業の中で最も印象に残っているものは何ですか

注) 右の表以外に総ての作業が印象に残っていると記入した卒業生が2名いた。また無答が12名

	A	B	C	全体
田 植 え	15	4	16	35
稲 刈 り	4	3	0	7
除 草	1	1	0	2

4. 経験した作業中、最もつらく、いやだったのは何ですか

注) 右の表以外に、無答者が30名いた

	A	B	C	全体
除 草	7	1	1	9
田植え	1	1	0	2
別になし	4	7	6	17

5. 諸君等が在校中経験したことをどのように考えますか

- a, よかったと思う
b, よかったと思わない
c, どちらともいえない

	A	B	C	全体
a	27	12	16	55
b	0	0	1	1
c	0	0	1	1
無 答	1	0	0	1

6. 現在でも生徒の手によって、イネ栽培が行われていますが、これについてどう思いますか

- a, よいことだと思う
b, よいこととは思わない
c, どちらともいえない

	A	B	C	全体
a	26	12	16	54
b	0	0	0	0
c	1	0	2	3
無 答	1	0	0	1

7.卒業後、在校中に行った農作業についてどう感じ
ていますか

a, 懐しい思い出として残っている

b, 別に何も感じていない

	A	B	C	全体
a	26	10	16	52
b	1	1	2	4
無 答	1	1	0	2

8.在校中の経験が、何等かの意味あいでも現在も

a, 役立っている

b, 役立っていない

c, どちらともいえない

	A	B	C	全体
a	14	3	2	19
b	4	4	3	11
c	5	3	13	21
無 答	5	2	0	7

3、研究の成果と今後の課題

1) アンケート調査の結果についての考察

すべての項目について検討するのは省略し、おもだった事柄について記述することにする。

- a) 事前の意識調査についてみると、A、B、Eの各項目では中学に比べ高校で割合が著しく少ないのは、彼等が中学の時すでに経験し、知っているため新鮮さが少ないためと思われる。高校生として他の中学から本校に入学するのは約40名で、この中にも兄弟、親戚関係で本校のしきたりを知っている生徒がいるだろうし、これは中学生についても同じことがいえる。
- b) C、Dに比べ事後調査の13の割合が減少しているのは、イネ栽培とは直接関係のない作業、つまり最近数年休閑状態で雑草がはびこっていた水田の耕起をさせ、泥まみれになって、かなりきびしい作業をさせたことが大きく影響していると考えられる。
- c) 意識調査Eと感想調査25-Dとを比べると中学、高校ともに約10%増加している。これは実際生徒に体験させることが大切で、その成果が出ているものと考えられる。
- d) 意識調査の段階と、事後の感想調査との関係について幾つかの項目に関して、その関連を調べた結果、次のようであった。

(ア)6；体を動かし働勞することは、自分の好みに合っている＝13；農作業は、全体的にみて楽しい仕事でしたか

中

No13

	ア	イ	ウ	エ	計
ア	36人	5人	4人	1人	46人
イ	10	1	5	1	17
ウ	32	8	15		55
エ			2	1	3
計	78	14	26	3	121

高

No13

	ア	イ	ウ	エ	計
ア	32人	7人	9人	2人	50人
イ	14	20	10	4	48
ウ	21	18	21	2	62
エ	1	1	1		3
計	68	46	41	8	163

(イ)7；農作業することは、人間形成の点からみてよいことだと思う＝13；農作業は、全体的にみて楽しい仕事でしたか

中

No13

	ア	イ	ウ	エ	計
ア	52	9	18	1	80
イ	1		1		2
ウ	25	5	5		35
エ			2	2	4
計	78	14	26	3	121

高

No13

	ア	イ	ウ	エ	計
ア	44	20	17	3	84
イ	5	13	5	3	26
ウ	19	12	16	2	49
エ		1	3		4
計	68	46	41	8	163

(ウ)7；農作業することは、人間形成の点からみてよいことだと思う＝24；経験を通して、あなたは作業に対してどのように感じましたか

中 No.24

	ア	イ	ウ	計
No.7	75人	1人	4人	80人
	2			2
	31	4		35
	3		1	4
計	111	5	5	121

高 No.24

	ア	イ	ウ	計
No.7	72人	6人	6人	84人
	13	7	6	26
	40	4	5	49
	2	2		4
計	127	19	17	163

(エ)8；栽培に大変関心をもっている＝12；水田の農作業は、よい経験になりましたか

中 No.12

	ア	イ	ウ	エ	計
No.8	56		8		64
	7		4		11
	38		3	1	42
	2			2	4
計	103		15	3	121

高 No.12

	ア	イ	ウ	エ	計
No.8	38		2	1	41
	35	8	17	7	67
	42	1	8	1	52
	1		2		3
計	116	9	29	9	163

(オ)8；栽培に大変関心をもっている＝24；経験を通して、あなたは作業に対してどのように感じましたか

中 No.24

	ア	イ	ウ	計
No.8	60	2	2	64
	10	1		11
	38	2	2	42
	3		1	4
計	111	5	5	121

高 No.24

	ア	イ	ウ	計
No.8	37	2	1	41
	45	12	10	67
	44	3	4	52
	1	2		3
計	127	19	15	163

(カ)9；開校以来続けている伝統なので、今後も続けるのがよいと思う＝26；学校として今後も続けた方がよいと思いますか

中 No.26

	ア	イ	ウ	計
No.9	104	3	5	112
	4	1		5
	2		2	4
計	110	4	7	121

高 No.26

	ア	イ	ウ	計
No.9	115	8	9	132
	8	4	1	13
	8	1	1	10
	5	2	1	8
計	136	15	12	163

この結果から次のことがいえる。

- ・事前調査で、“体を動かし勤労することは自分の好みに合っている”という問に対して“いいえ”または“どちらともいえない”と記入した生徒が事後調査では、中学、高校ともかなりの生徒が農作業は全体的にみて楽しい仕事であったと受けとめていた。

- ・農作業は、人間形成の点からみてよいことと考えている過半数の生徒が、農作業は全体的に見て楽しいと感じていた。

- ・栽培に大変関心をもっている生徒が、水田の農作業はよい経験になったと記入したのは当然であるが、“栽培に関心をもっていない”あるいは“どちらともいえない”と記入した生徒のうちかなりの数の生徒が、よい経験になったと事後感じており、指導効果があがっていると考えられる。

- ・卒業生の多くは、在校中の水田実習の苦労を懐しみ、特に古い卒業生は、卒業後種々の社会生活の中で有形、無形の価値ある体験実習として認めているようである。また、現在も彼等の在校中からずっと継続していて、伝統化していることについて誇りに思っている卒業生もいた。

(2) 指導方法について

指導する内容については、事前によく理解させておくことが望ましい。勤労奉仕的に終始するのをさけるようにしたい。14期から23期までは、学校必修として教科をおいて、生徒にかなり事前に指導できたが、現在はそのような時間がないので、不都合な状態である。したがって、今年度は参考資料としてプリントを作り配布して便法をとったが、本来は以前のような形で指導するのが好ましいと考える。現在のような形をとる限り、各学級の担任教官が生徒指導に積極的であることが必要で、この点本校の各教官は、熱心に生徒指導に当り、好ましい状態であった。

昭和57年度からは、指導要領の改訂によって自由裁量の時間ができるので、この時間を活用するのも一方法であろうと思う。

(3) 自然的（天候など）条件について

晴耕雨読といわれるように農作業は、天候によって予定した日に実施できないことが再三生ずる。前記のように原則として必修クラブの時間またはホーム・ルームに行っているが、都合によっては担任教官の授業時間とふりかえて実施することもある。この点も自由裁量の時間を活用することによって、教科の授業に支障が少なく指導できることになろう。

駒場の水田は、ほぼ東西に細長い窪地になっていて、南側には土手があり元東京教育大学農学部林学科の苗圃、雑木林があって、水田の南側は日当たりが良くない状況である。

4、その他

(1) 水田の管理権について

OBは勿論であるが、在校生の多くが今後ともイネ栽培を継続して行く意向が強いし、学校としても、その歴史的経緯および教育実践、教育研究の立場から、母体である筑波大学が所有、管理し、本校が教育施設として将来にわたって継続使用することを強くのぞんでいる。

(2) 用水、水源について

駒場の水田の用水は、すべて用水池の水にたよっているわけで、水田と同じく跡地問題がからんでおり将来どうなるかわからない状態である。池の水質、水量の問題も気になるところであるが、跡地利用の件が最も重要なことであるといえる。

(3) 地域住民へのサービスなどについて

近年地域社会の農耕地が減少の一途をたどっており、とりわけ水田は近くにほとんど見られない実状なので、例年田植え、イネ刈りなどの際には近隣の幼稚園の園児、小学校の児童の見学に供し、さらに必要に応じて教材としてイネの苗を供給している状態である。

また、身体不自由な生徒にも是非田植えの経験をさせたいとの当該学校からの依頼があって、小面積ではあったが田植えをしてもらったこともあり、また、施設の子供、老人にイモ掘りをさせてほしいとの要望があり、サツマイモ畑の一部をイモ掘りに提供したこともある。

その反面、地域には水田は勿論のこと、自然が残されている場所が少ないため、子供達の恰好の遊び場所となり、かなり農作物に被害を受けることと、土手上から異物（空かんなど）が投捨され、これらの対策にも苦慮している。

(4) 農業機械の更新について

農具類は、その消耗がかなりはげしいが、その修理、補充には差程経費を必要としない。しかし、農業機械（耕耘機、脱穀機、籾すり機など）は、農具に比べれば消耗が少ないとはいえ整備もしくは更新を必要とする状態にある。

昭和56年 3 月



苗代への種まき準備 (4.28.)



苗代の除草 (6.2.)



苗代での苗の生育状況(除草直後)(6.2.)



田植前の苗取り作業 (6.17.)



田植え実習 (6.17.)



田植え実習を見学する幼稚園々児 (6.17.)



イネの生育状況 (8.15.)



防鳥網も張られ、収穫期も近くなったイネ
(10.1.)



サトイモ植え付けのための畦立て作業(5.12)



同 左 (5.12)



畦立て終わった所から黒色ビニルでマルチンをする。(5.12)



カッターで植え付ける所に十字に刃を入れ、そこにイモを定植する。(5.12)



定植し終えたサトイモ畑 (6. 2)



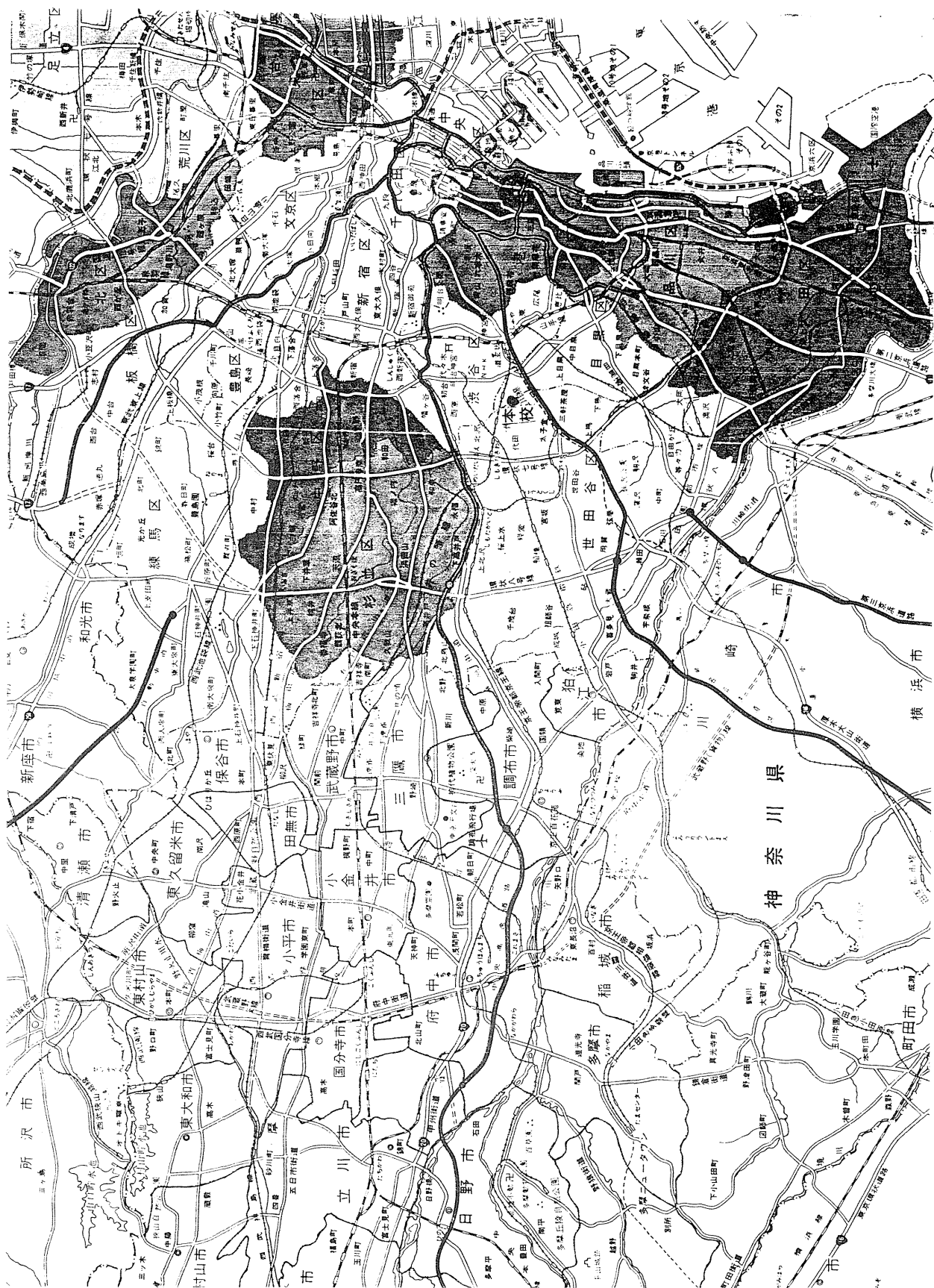
サトイモの生育状況 (7. 19.)



サトイモの生育状況 (10. 1.)



サトイモの芋掘り(収穫) (10. 23.)



(参考資料 3, 本校から水田までの略図)

